

歴史探検隊 出発！

和歌山市立三田小学校 木村安男

1. はじめに

6年生の社会科学習（歴史学習）では、校区・地域・日本全国を結びつけた学習がたいせつである。それは、とすると教科書に頼った観念的な学習になりがちなものを、自分の手足を使った学習に子どもたちをいざなうものである。ここでは、校区 和歌山県 日本全国とつながった学習を考えてみたい。

2. 三田（さんた）歴史探検

4月。さあ、6年の社会科学習のスタートである。教科書では、博物館等の地域の素材を活用して、子どもたちの興味・関心を喚起していく記述もある。このように、地域の素材を活用するのは、もう一つの目的がある。子どもたちの歴史学習をしていくための基盤を、共通化していくことである。この二つの目的をもって、学習はスタートした。

三田のむかし・昔をさがそう

子どもたちがグループを組んで、自分たちの力で三田の昔を語るものを探しに行った。地域の人たちに声をかけ、神社や寺の人たちに教えてもらった。子どもたちからは、「三田にこんなものがあったのか」と驚きの声があがった。

三田歴史探検隊 出発！

子どもたちが調べたことをもとにして、校区に住んでいる歴史研究者にゲストティーチャーにきていただいて、歴史探検に出発した。弥生時代の遺跡で、土器のかけらを見つけて驚く子どもたち。古墳の説明を聞いて、初めて古墳を知る子どもたち。たいせつな火を祀った神社があった所で、話に聞き入る子どもたち。



3. 和歌山歴史探検

校区の歴史探検をした子どもたちは、さらに探検場所を広げていきたいという学習意欲へと高まってきた。そこで地図帳の登場である。子どもたちは、5年までの学習で、地理学習での地図の活用は経験している。しかし、6年での歴史学習での活用は初めてである。



帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』p.26

さあ、和歌山歴史探検の出発である。地図帳の p.26 を開いてみた。子どもたちがまず見つけたのは、ノルマントン号事件であった。しかし、いったいどんな事件なのかわからない。さっそく図書室へ調べに行く子どもたち。さらに地図帳を詳しく見ると（詳細な地図がのっている p.27 ~ 28 を開く子どもたちも出てくる）、和歌山城・紀伊風土記の丘等の遺跡・旧跡を見つけた。また、紀ノ川筋の金剛峯寺・粉河寺・根来寺等も見つけた。さきほどのノルマントン号事件と合わせて、古代から近代までのさまざまなものを見つけ、社会科学習の導火線に火がつく和歌山歴史探検であった。

4. おわりに（日本歴史探検）

ここまでくれば、子どもたちは、社会科学習が進んでいくごとに、地図帳の関連したページを開いて学習を深めていくようになってくる。

さあ、日本歴史探検隊の出発である。